

案の1「志の国こうち学びの日（仮）」について（提言）

（案の2「志^{しこく}国こうち学びの日」、案の3「こうち学びの日」）

1. 趣旨

全国生涯学習フォーラム高知大会の取組の意義を一年限りにせず、県民の教育に対する関心を高めるとともに、県民一人ひとりが今の教育の在り方について考える機会を設け、互いに話し合い、行動する日とするため、「志の国こうち学びの日（仮）」を制定する。

2. 教育の日

毎年11月1日を「志の国こうち学びの日（仮）」とする。

3. 教育週間

「志の国こうち学びの日（仮）」の趣旨に沿った活動を重点的に実施する期間として、11月1日から7日までを「こうち学び週間（仮）」とする。

4. 制定の方法

高知県教育振興基本計画推進会議において、「志の国こうち学びの日（仮）」宣言を起草する。

その後、「志の国こうち学びの日（仮）」宣言に全国生涯学習フォーラム高知大会実行委員会委員の賛同を得て、県民の意志による「志の国こうち学びの日（仮）」宣言とする。

その上で全国生涯学習フォーラム高知大会閉会式（11月22日（月））において、「志の国こうち学びの日（仮）」宣言を行う。

5. 具体的な取組（実質的には23年度からのスタート）

単発のイベント実施に終わることなく、県民一人ひとりが教育について互いに話し合い、行動する日とするため、県教委も含め、そのきっかけとなるための情報発信を行うほか、それぞれの関係者ができることから関連の取組を行っていく。

(1) 推進体制

『「志の国こうち学びの日」県民会議（仮）」の設置

県民一人ひとりが教育について互いに話し合い、行動する日とするため、県教委も含め、そのきっかけとなるための情報発信を行うほか、それぞれの関係者ができることから関連の取組を行っていく。

- ・ 毎年特定の月に開催
- ・ 毎年度、共通して取り組むテーマ等を設定
- ・ 関係団体等が行う取組を、県教委で取りまとめて公表

(2) 県教委の取組

関係者が教育について、相互に話し合うきっかけとするための情報の提供、及び県民の行動の成果が分かるような情報の提供。

- ・ 高知県の教育の状況（学力・体力、生徒指導上の諸問題、進学就職状況等）の公表（例えば、新聞一面）
- ・ 各種表彰（可能なら、記念講演等も同時開催）
- ・ 教育委員会と住民との意見交換の場の設定

(3) 他の団体等の取組（事前調査の結果から想定され得るもの）

- ・ 市町村広報誌での教育の状況の公表
- ・ 地域レベルでの教育研究大会やフォーラム等の開催
- ・ 学校（授業）の公開
 - 公開授業や学校行事（懇談会、発表会、文化祭等）の開催
 - 家庭や地域住民の参加（大人の学校、1日先生等）
 - 企業へ「子どもの参観日」に積極的な参加協力を要請
- ・ 登下校時の見守り活動、あいさつ運動
- ・ 市町村（地域）の文化祭やスポーツイベントの開催
- ・ PTA大会、親子の集い、子育て相談会
- ・ 企業向け（経営者や従業員向け）セミナー
- ・ 学校、地域が連携した自然・伝統文化の体験活動や清掃などの社会貢献活動
- ・ テレビを見ない、新聞を読んで家族で話し合うなど家庭での会話やふれあいを図る家族会議の実施

など

○宣言文に盛り込む要素

- ・生涯学習の視点（「学び続ける風土」）
- ・高知の風土（豊かな自然、あたたかい人）
- ・学校と地域が一体となって教育に取り組んでいく姿勢
- ・幼児期からしっかりと子どもを育てていくという姿勢
- ・教育の原点を見つめなおす日としての位置づけ（家族の在り方）
- ・社会を変えていく志を持った偉大な先人たち

宣 言（案）

高知県は、豊かな自然環境に恵まれ、その中で感性に富んだ心豊かな人々を育んできました。また、社会を変えていく志を持った偉大な先人たちも含まれています。このような人々を育んだ風土は次代に引き継ぎ、拡げていかなければなりません。

そのために県民を挙げて次のことに取り組んでいきます。

- ・生涯を通して学びを継続し、力強く生きていく志を持ちます。
- ・教育の原点でもある家庭において、幼児期から十分に愛情を注ぎ、人としての基礎・基本をしっかりと育成します。
- ・地域も子どもたちを見守り、子どもや学校と一緒に教育にかかわっていきます。
- ・教育関係者は自らの使命を感じながら、県民一人ひとりが持つ可能性を最大限に引き出します。

（案の1）

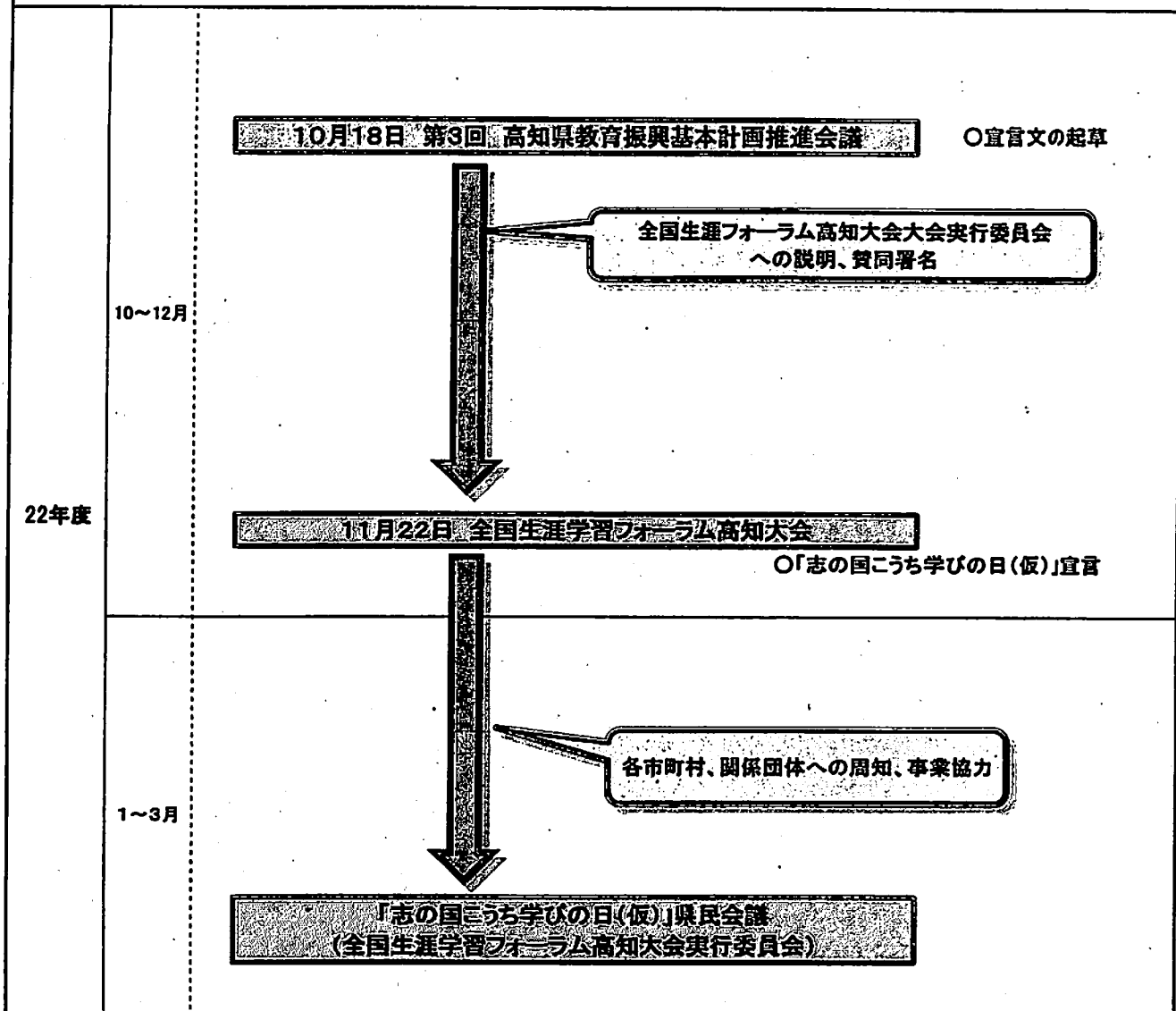
これらのことを実行するために、すべての県民が子どもたちを育み、ともに学びあう意識を持ち、自らも生涯にわたって学び続けることのできる風土をつくりあげていくことを期し、11月1日を「志の国こうち学びの日（仮）」とすることを、ここに宣言します。

（案の2）

これらのことを実行するために、11月1日を「志の国こうち学びの日（仮）」とすることをここに宣言し、すべての県民が子どもたちを育み、ともに学びあう意識を持ち、自らも生涯にわたって学び続けることのできる風土をつくりあげていきます。

平成22年11月22日

「志の国こうち学びの日(仮)」宣言に係る今後のスケジュール(案)



趣旨

- ・振興計画を作る時に教育風土が議論されたが、生涯学習を続けて行くことに意義がある。学びの目的から逃避している人が多い。学び続ける大切さを考える一日、一週間にすることに値打がある。
- ・短期間でもいいので教育の効果や動きに着目してもらおうという趣旨はいいのでは。
- ・地域の教育力を高めることが重要。この日が教育について考えるきっかけになる日になればよいのではないか。

名称

- ・人は志を持つことが大事であり、来年度行われる「志国高知龍馬ふるさと博」にもちなみ「志」という言葉も入れたらいいのでは。例えば、「志の国こうち教育の日」とか。
- ・「学びの日」という表現の県もある。

制定方法

- ・事務局が宣言（案）を示し、それを推進会議で協議する方法でいいのでは。
- ・教育関係者だけで制定するのではなく、それ以外の人にも入ってもらって制定することがより広がりを持つ。その意味ではフォーラムの実行委員さんのような多様な人々に関わってもらうことはいいのでは。

宣言の内容

- ・学校教育だけの視点よりも、生涯学習の視点も必要。宣言には「学び続ける風土」という表現を入れたらいいのでは。
- ・高知の豊かな自然やあたたか人々。高知という風土などのことも宣言に含められたらいいのでは。県名を除いたらどこも同じでは意味がない。
- ・豊かな自然のもとで学校と地域が一体となって教育に取り組んでいく。そういうことを打ち出すことも必要。
- ・不登校など教育のひずみが出ているが、それらを解決するためには幼児期に視点を当ててしっかりと子どもを育てていくという姿勢が必要。幼児期の教育が全ての原点。
- ・「教育の日」は教育の原点を見つめなおす日。家族の在り方なども宣言には含めたらよい。
- ・「教育の原点」や「家族の在り方」、「高知の風土」などについては振興計画に盛り込んでいる。振興計画を参考にすればいいのでは。

取り組みについて

- ・世論調査等の結果を公表し、県民に教育について考える素材を提供していくことも大事。
- ・事業を実施する際にも「教育の日」という看板を掲げて行う。それが「教育の日」の趣旨を広めていく一つの手段にもなる。
- ・「教育の日」にはマスコミにもかんでもらうことも必要。

- ・県全体で行うとすれば、新聞等で教育の現状を知ってもらうことは大切だと思う。
- ・子ども会議などで教育について子どもたちに意見を述べてもらってもよい。中学生、高校生を参画させる仕組みも考えては。
- ・毎年テーマを定め、ある年は学校教育を、別の年は自然の大事さなど特定のテーマを定め打ち出していくのはどうか。

《参考》

高知県教育振興基本計画推進会議や関係団体アンケート等の主な意見

1 「教育の日」の意義や理念について

＜意識の向上、一人一人の行動に着目する意見＞

- ・ 県民みんなが、もっと子どもの幸せと教育について注目していこうという教育に対する意識を高める日とすべきである。(高知県退職女性校長会)
- ・ 家庭と学校、地域と行政が一体となって考え、教育に対する理解や関心を高める活動を行っていくべきであり、教育の日をそのひとつのきっかけとすべきである。
(高知県保幼小中高PTA連合体連絡協議会、高知県私立幼稚園連合会)
- ・ 「教育の日」は、県民の教育に対する関心を高め、県民ひとり一人が今の教育の在り方を考える機会を設けて、相互に考え、話し合い、行動する日とすべきである。
(高知県退職高等学校長会、放送大学高知学習センター、高知工業高等専門学校、高知県高等学校長協会)
- ・ 「教育の日」は教育を担当する機関等が、行ってきた教育の成果や、これからの計画を具体的に提起し、県民に、教育を担当するものの責任とその具体的内容について、理解を求める日であるべきである。
また、教育を行うものが、教育の二つの性格、すなわち、教育の普遍性と時代性をしっかりと見つめ、教育の今を県民と共に考え行動する日であるべき。さらには、教育を行う者に対する正しい理論と方法を提起し、一層の向上を願う日とすべきである。
(高知県子ども会連合会)
- ・ 既に各学校が保護者の協力を得て特徴的な事業を行っている。しかし、地域社会が参加する機会が少なくなっている。社会全体が教育について考える機会とすべきである。
(高知県教育振興基本計画推進会議委員)
- ・ 学習に終着点はなく、生涯にわたって学び続けること、学ぶこと自体に人間としての生きがいがある。教育の日はそのような教育風土の醸成に活かされるべきである。
(高知県市町村教育委員会連合会)
- ・ 「全国学習フォーラム」の精神を高知県(地域)に根づかせるものとすべきである。
(高知県社会福祉協議会)

＜具体的なものとすべき、その他の意見＞

- ・ 一般市民にとっては漠然としすぎてよく分からないので、具体的な定義とし、意義や理念を示すべきである。(高知大学)
- ・ 「教育は学校、躰は家庭、人間関係は家庭と学校と地域」など明快なメッセージが必要ではないか。(高知県専修学校各種学校連合会)
- ・ 社会人等も対象として生涯学習も含めるならば、「教育の日」より、「自分づくりの日」、「高知学びの日」、「高知共育の日」などのネーミングで、広く県民に呼びかけるべき。
(高知県商工会議所連合会)
- ・ 「教育の日」という形をつくれれば高知県の教育力が上がるという発想は、もうそろそろ卒業していい時期。高知県の教育力の向上のためには、①すばらしい意欲をもった先生方をどれだけつくるか。②社会のルールや人間としての規範を守る大切さをきちっと教える家庭の教育力が必要。(高知県商工会連合会)

2 「教育の日」を定める場合の時期や期間について

アンケート回答		県民世論調査
回答内容	回答団体	
11月1日を「教育の日」とする。	高知県退職高等学校長会、高知県私立中学高等学校連合会、	13.6%
11月1日を「教育の日」とし、その後1週間を教育週間とする。	高知女子大学、高知大学、高知工業高等専門学校、高知県青年団協議会（複数回答）	25.6%
教育の日は、11月1日とし、11月の月間を教育月間とする。	高知県高等学校長協会、高知県私立幼稚園連合会、放送大学高知学習センター、	9.9%
11月の第一土曜日か日曜日（参加しやすいため）	高知県退職女性校長会	-
11月15日（坂本龍馬の誕生日）を「教育の日」とする。	高知県市町村教育委員会連合会（複数回答）	-
11月3日（文化の日）を「教育の日」とし、その前後一週間を「教育週間」とする。	高知県市町村教育委員会連合会（複数回答）	-
11月は我々の団体にとって、の研究大会や研修等が集中し、教育について考える時期として11月は非常に適しているのではないかと考える。	高知県保幼小中高PTA連合体連絡協議会	-
「教育の日」として毎月特定の日を指定し、毎月その日に取り組みを展開する。	高知県青年団協議会（複数回答）	26.7%
1月に実施し、今年1年の想い、目標のために学ぶことを考える。	高知県商工会議所連合会	-
1週間、1ヶ月という期間の中で取り組むことが良い。	高知県小中学校長会、高知県専修学校各種学校連合会	-
11月20日、21日（生涯学習フォーラム開催日）	高知県社会福祉協議会、高知県市町村教育委員会連合会（複数回答）	-
11月のいずれかの日	高知県子ども会連合会	-
その他	-	3.3%
分からない	-	15.6%
無回答	高知県公民館連絡協議会、高知県社会教育委員連絡協議会、高知県連合婦人会、高知県老人クラブ連合会、高知工科大学、高知県農業協同組合中央会、高知県森林組合連合会、高知県漁業協同組合連合会	5.1%

3 「教育の日」 関連行事として、各団体等で考えられる活動内容について

<主として県で行うべき取組についての意見>

- ・ 広く県民に広報し、こぞって幼児から高齢者まで教育に感心をもつと同時に皆が参加する意義ある講演会等の開催。(高知縣市町村教育委員会連合会)
- ・ 「教育の日」は教育を担当する機関等が、行ってきた教育の成果や、これからの計画を具体的に提起し、県民に、教育を担当するものの責任とその具体的内容について、理解を求める日であるべきである。(高知県子ども会連合会)
- ・ 教育の日の制定によって、子どもが一番に恩恵を受けなければならない。頑張っている子ども達をマスコミ等で紹介して、更にやる気を起こさせるような取組や、県立の美術館や動物園などを子ども達に無料開放するなどの取組も必要ではないか。
(高知県保幼小中高PTA連合体連絡協議会)

<県以外の主体の参加の在り方についての意見>

- ・ いろいろの行事の企画者に、「教育の日」協賛事業を企画してもらい、行政もボランティアも企業教育担当者も学校教育も、住民を教育する関係者が集うイベントがあり、それがベースとなるべき。(高知県子ども会連合会)
- ・ 各学校、地域の実態に応じた内容であり、意義理念に沿っていれば、特に決める必要はない。
(高知県小中学校長会)

<各団体で行い得る取組についての提案>

- ・ 各地域、各学校の実状に応じた活動。(例：講演会、発表や展示、学校公開、シンポジウム、親子の集い、地域懇談会、スポーツ大会、読書会、子ども集会、ボランティア活動、フォーラム、フェスティバル、PTA大会、子育て支援活動、教育委員との懇談。)
(高知県退職高等学校長会)
- ・ 地域に応じた活動を考える。(例：学校自由参観日、保護者だけではなくその地域に住む方々も自由参観とし、懇談会・子どもと昔遊び・地域を歩くスポーツ大会、現職女性校長会と退職女性校長会の連携を深めるための交流の日とする。)(高知県退職女性校長会)
- ・ 県下的な広がりのある取組となるような読書の推進や親と子どものふれあいやかわりが持てるような取組みを実施する等、各市町村の既存の取組との調整を図りつつ位置づける。その年代に応じた各種の催し物を実施し県民一同が記念すべき日とする。関連文化施設等の無料開放。三世代交流を推進するための、体験活動の実施。(高知縣市町村教育委員会連合会)
- ・ 年間に行われる、指導者育成事業を中心に、教育的機能を十分活用できる事業を選び協賛事業として、計画してみたい。(高知県子ども会連合会)
- ・ 継続的な啓発、事業の開催。学校を中心とした取組。(高知県青年団協議会)
- ・ 教育の日の制定によって、子どもが一番に恩恵を受けなければならない。いろいろな体験をさせるために、「一日知事」や「一日県教育長」、「一日市町村長」など減多に経験できない職業を体験させ、子ども達がこれから目指したいものを考えるときのひとつのきっかけとしてはどうか。(高知県保幼小中高PTA連合体連絡協議会)
- ・ 県社協、市町村社協による「福祉教育」の出前講義(授業)(高知県社会福祉協議会)
- ・ 両親が学校の講師となり、父兄も参加する授業参観日をつくる。野外へ出て、フィールド授業を行い、その講師を大学教員が行う。(高知大学)
- ・ 各学部で実施する公開講座等(但し、日程は必ずしも教育週間とは一致しない)
(高知女子大学)
- ・ 放送授業の体験を各地域の学校や公民館等で実施する。放送大学高知学習センターの客員教員による出前講演会を実施する。(放送大学高知学習センター)

- ・ 学校で開催される文化的行事を、学校、家庭、地域社会参加型として実施し、相互理解を深めるとともに連携した教育に発展させてゆく。(高知工業高等専門学校)
- ・ 準備が相当必要であり、高知大学と本連合会の連携が必要となるが、「教育は学校、躰は家庭、人間関係は家庭と学校と地域」に沿った、「親学※」のような考え方の取り組みを高知で初めてみてはどうか。※既に行われている「親学」と同じものを意味しない。
(高知県専修学校各種学校連合会)
- ・ 幼小連携の場を各地域で実施する。(例：高知市の場合：中央・東・西・南・北地区のブロックを設け、その地域内の保幼小の先生達が集まって、地域の子どもを中心とした研修活動を行う。)(高知県私立幼稚園連合会)
- ・ 高知県私立中学高等学校連合会として活動は考えておらず、私立9校が個別に対応を検討するものと思われる。(高知県私立中学高等学校連合会)
- ・ 高等学校では、高等学校総合文化祭の充実、特別支援学校では、高P連特別支援学校支部、PTA研修の充実等。(高知県高等学校長協会)
- ・ 学校等の授業に、地域で活躍している経営者の派遣、職場体験の斡旋。高知商工会議所の会報(約3, 200企業)を通じて、関連事業の啓蒙活動。「教育の日」にあわせた企業向け(経営者や従業員向け)セミナーの実施。(高知県商工会議所連合会)

4 その他

<活動の盛り上げ、広報等に関する意見>

- ・ 県民への周知が十分でなく知名度が低いと思う。キャッチフレーズやシンボルマーク、テーマソングの募集などを行って知らせていくことも必要ではないか。
(高知県保幼小中高PTA連合体連絡協議会)
- ・ 広く県民に教育の日制定の事実や、その意義を伝えるための広報活動の工夫。このことに関するアンケート調査を実施している各種団体の中に、マスコミ関係がなぜ入っていないのが疑問である。県民運動としてキャンペーンをしていく上で、マスコミは大きな働きがあるはずである。是非、組織の中に位置付けるべきである。
(高知県市町村教育委員会連合会、高知県教育振興基本計画推進会議委員)
- ・ 推進にあたっての予算(補助)化が必要。県として新聞等に多いに広報活動をする意識が高まる。(例：市のおかるい町)(高知県退職女性校長会)
- ・ 現場の先生方(小・中・高校)の意識改革が必要ではないか。(高知大学)
- ・ 学校、家庭、地域社会が各種行事に進んで参加する意識を育てるためには、参加できる環境整備が必要である。そのためには日曜日開催なども検討すべきである。また、スタンブラリーの要素も入れて、保護者が行事に参加した実績をお互いに確認できるようにする。
(高知工業高等専門学校)
- ・ 教育の日の制定に関しては、後発の県となるが、後発の県なりの特色を出していくべき。
(高知県教育振興基本計画推進会議委員)
- ・ 県民運動としてどれだけ盛り上げていくかが大事である。そのためにも県民との関わり方を考えていくべきである。(高知県教育振興基本計画推進会議委員)
- ・ 学校、家庭、企業などが協力して、実施することが必要である。また、1年目はモデル市町村を県内に数カ所以上設置し、徐々に高知らしい取組を発見し、実践・各地へ浸透させる方が良いと思われる。(高知県商工会議所連合会)

〈取組の継続に関する意見〉

- ・ 過去の行政にあったような「かけ声」だけにならないように具体策を作り、計画と実績を詳細に点検することが重要である。(高知県専修学校各種学校連合会)
- ・ これまで制定した「〇〇の日」の評価・検証(効果がない場合「それは何故か」など)が必要ではないか。(高知県社会福祉協議会)
- ・ 秋は様々な行事が集中する時期である。忙しいからやめようということにならないよう教育の日を定める過程で出てくる、うねりのようなものを大事にして欲しい。
(高知県教育振興基本計画推進会議委員)
- ・ 打ち上げ花火的なイベントを実施しただけということにならないよう、着実な取組みが必要である。(高知県私立幼稚園連合会)
- ・ よくある〇〇の日のように、県民に忘れられ、形骸化することのないようにすること。
(高知県教育振興基本計画推進会議委員)